

55. ^{だいせんみち} 大山道—^{かわとこみち} 川床道

—^{よこてみち} 横手道

—^{ぼうりょうみち} 坊領道

選定箇所：川床道—川床～地蔵峠（鳥取県大山町・琴浦町・倉吉市）、横手道—大山寺～榊水高原（大山町）、三坂峠～湯原釘貫（岡山県真庭市）、坊領道—大野池入口～種原入口（鳥取県大山町）

概要：奈良時代に大山寺が創建され、本尊として地蔵菩薩が祀られると、地蔵信仰が中国地方を中心に広く伝わり、広大な信仰圏が形成された。坊領道は、大山（大山寺）への参詣道である大山道の主要五道（横手道、川床道、坊領道、尾高道、溝口道）の一つで、大山寺領であった坊領村を經由して大山に向かう道の総称である。

美作国西部を縦断するその道筋にあって、「三坂三里は五里ござる」と歌われた難所が三坂峠である。峠は、米・砂鉄・煙草・漆器・塩などの物資輸送や、大山寺への参詣、また大山牛馬市への往来でにぎわった。そのため藩や幕府代官は、旅人の便宜を図るため、頂上付近に茶屋を設け、保護に努めた。茶屋への給米から峠の一名を「十石峠」、あるいは峠の頂から近隣10か国が望見されることから「十国峠」と呼んだと伝わる。



坊領道（大山町）【写真提供：大山町観光課文化財室】



三坂峠（真庭市）